

## 高齢者肺癌に対するサポート介入を考える

科目責任者：仁 保 誠 治（内科学（呼吸器・アレルギー））

### I. 前 文

1980年以降，悪性腫瘍は日本人の死亡原因の第一位であり，年々増加している。肺癌は臓器別の悪性腫瘍による死亡原因の第一位である。高齢化社会となり，肺癌患者の平均年齢は70歳を超えている。高齢者肺癌患者に対する薬物治療，必要な医療サポートの現状，今後必要とされるものについて議論する。

### II. 受入可能人数

若干名

### III. 担当教員

科目責任者：仁 保 誠 治（内科学（呼吸器・アレルギー）），指導担当教員：新 井 良，  
曾田紗世（内科学（呼吸器・アレルギー））

### IV. 学習内容

高齢者に対する複数の視点からの機能評価を推論後，実習にて機能評価を行い，高齢者肺癌患者に必要なサポートを考察する。その上で，適切な薬物治療についても議論する。

1回の講義時間，実習時間は約1時間。受講者の都合に合わせて行う。

### V. 学修の到達目標

高齢者肺癌患者に必要な医療サポートには，現在どのようなものがあるか，今後何が必要とされるか知ることができる。

### VI. 成績評価の方法・基準

自主学習内容に関するレポート提出で評価する。

### VII. 教科書・参考図書・A V資料

高齢者機能評価の質問票を教材にする。

日本老年医学会ホームページ（高齢者診療におけるお役立ちツール）：<https://jpn-geriat-soc.or.jp/tool/index.html>

### VIII. 質問への対応方法

臨床医学棟 7階 内線 2705

### IX. 求められる事前学習，事後学習及びそれに必要な時間

事前学習として日本老年医学会ホームページを参照し，高齢者の機能評価方法をまとめておくこと（30分程度）

### X. コアカリ記号・番号

「GE-03-05」老年期

### XI. 課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法

レポート返却時にコメントをつけて返却

Ⅻ. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置く DP      ○：重点を置く DP

| ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針） |                                                                    |   |
|--------------------------|--------------------------------------------------------------------|---|
| 医 学 知 識                  | 人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。         |   |
|                          | 種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。                      |   |
| 臨 床 能 力                  | 卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。                            |   |
|                          | 医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。                                       |   |
| プロフェッショナリズム              | 医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。              | ◎ |
|                          | 医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。 |   |
| 能 動 的 学 修 能 力            | 医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。                          |   |
|                          | 書籍や種々の資料，情報通信技術〈ICT〉などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。                   |   |
| リサーチ・マインド                | 最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。                               |   |
|                          | 自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。                              |   |
| 社 会 的 視 野                | 保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。                       |   |
|                          | 医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。                      |   |
| 人 間 性                    | 医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。                         | ○ |
|                          | 多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。                    |   |